



はいたつ  
るぽ  
Reportage

食品物流の担い手である冷蔵倉庫などの低温物流業界では、お客さまからの物流品質の高度化やコスト低減へのニーズを背景に、コストパフォーマンスに優れた倉庫管理システムが求められています。そこで愛知県小牧市に本拠を構える名豊興運株式会社（以下、名豊興運）は、主力の低温物流拠点である小牧南物流センターに、日立の「Sherpa/倉庫管理クラウドソリューション」を導入。SaaS型サービスならではの短期立ち上げと、冷蔵倉庫業に必要とされるトータル機能の提供により、センター業務の効率化と戦略経営に欠かせないリアルタイムな情報活用を実現し、ビジネスにさらなるスピードと競争力を生み出しています。

## Sherpa/倉庫管理クラウドソリューションで わずか2か月半でのシステム立ち上げに成功

名豊興運株式会社

<http://www.meiho-kohun.co.jp/>



名豊興運株式会社  
取締役執行役員 本社営業部長  
笥 浩司 氏

## 名豊興運株式会社

### USER PROFILE 名豊興運株式会社

本社：愛知県小牧市南外山字道上123  
設立：1971年12月9日  
資本金：3,000万円  
社員数：294名(2011年4月14日現在)  
事業内容：一般貨物自動車運送事業・貨物軽自動車運送事業、  
倉庫業、荷物の保管管理/梱包事業・特定労働者派遣事業



### 低温物流の中核基地となる 小牧南物流センター

1971(昭和46)年、家電製品物流から事業をスタートさせた名豊興運は、東海地方を中心に輸送・配送・倉庫業務のビジネスを年々拡大し、現在は小牧北物流センター(常温センター)、小牧南物流センター(冷蔵冷凍センター)を中心とした6センターと6事業所において、荷主物流の効率化に向けた幅広い輸送サービスを展開しています。

その中でも、食品関連物流を強化するため2008年10月に新設されたのが、敷地面積約1万400平方メートル、ドックシェルター<sup>\*1</sup>30基を備える小牧南物流センターです。

「本センターは、当社の主力事業となる低温物流をさらに拡大するための新拠点として立ち上げたもので、冷凍・冷蔵・ドライ機能の3温度帯対応の物流センターとなっています。温室効果ガス排出抑制をめざした地球環境に優しいノンフロン型の冷凍・冷蔵装置を使用しているのが特長で、ドックシェルター付近の荷さばき室も陽圧設計によって外気の侵入を防ぎ、温度を一定に保つ設備を備えています」と語るのは、取締役執行役員 本社営業部部長の筧 浩司氏です。

\*1 冷凍冷蔵倉庫における外気の流入や室内冷気の流失ロスを防ぐため、シャッターやロールブラインドなどにより開閉できる構造にした搬入・搬出口

### 運用負担が少なく 早期立ち上げが可能なクラウドを選択

複数の荷主企業から物流を受託している小牧南物流センターは、これまで自社ではWMS(物流総合管理システム)を用意せず、荷主が持ち込んだシステムで運用を行っていました。しかし、ビジネス

のさらなる拡大と他社との差別化を図るためには、倉庫管理から実績管理、荷主への情報提供まで含めた物流支援の提案を行う必要があるとの考えから、2010年末、自社システムの導入を決断しました。

「ただし当社ではシステム専門の部署を持っておらず、自社システム構築の経験もほとんどないのが実情です。また業務の停滞を最小限に抑えるためにも、いち早いシステムの立ち上げが必要だったのです。これらの要件に合わせた提案を複数のベンダーからいただきましたが、オンプレミスなパッケージシステムでは、構築に最低でも6か月はかかると言われ、サーバやクライアントなどの運用管理も自社で行わなければならないことが大きな負担に感じました。これに対し日立さんの提案は、クラウドサービスということで、わずか数か月での立ち上げが可能であり、システム運用負担の心配がないことが大きな決め手になりました」と筧氏は語ります。

### 冷蔵倉庫に必要な機能とノウハウを トータルに提供

名豊興運が選択したのは、日立の「Sherpa/倉庫管理クラウドソリューション」でした。本サービスは、ニチレイロジグループ約100拠点の業務ノウハウを集結して開発されたもので、冷蔵倉庫や食品物流センターなどで必要となる多様な管理機能を短期間・低コストで導入できます。

具体的には、DC<sup>\*2</sup>/TC<sup>\*3</sup>をはじめとした、食品サプライチェーンのさまざまな物流センターモデルに対応しており、約400機能/150帳票からなる複数の業務グループ(サブシステム)から、在庫系サブシステムや請求・売上管理系サブシステムなど、お客さま企業に必要な機能を自在に組み合わせるだけで、ノンカスタマイズで導入できます。また、パラメータ設定などによる荷主個別ニーズへの柔軟な対応も重視し、標準化と個別機能の両立をバランスよく実現できるのが特長です。



名豊興運株式会社  
本社営業部 小牧南物流センター センター長  
山田 健二 氏



名豊興運株式会社  
本社営業部 小牧南物流センター  
佐々木 智広 氏

はいたっく  
るぽ  
Reportage



▲Sherpa/倉庫管理クラウドソリューションを利用した業務風景



◀各営業所、倉庫に掲げられた「心をこめて」の言葉には、1つひとつの商品とお客さまに「心をこめて」接するという名豊興運の経営理念がこめられている

これにより、既存荷主だけでなく、新規荷主への対応も迅速に行えるほか、現場作業効率の向上と標準化を図ることが可能となります。また、保税※4、請求、不定貫管理※5など冷蔵倉庫業界に必要とされる機能もトータルに提供されるため、ネットワーク回線とWebブラウザがあれば、サービス導入後すぐに業務利用が可能となります。

※2 Distribution Center: 在庫保管型センター  
 ※3 Transfer Center: 通過型センター  
 ※4 外国貨物に対する輸入税の賦課を猶予したままの状態で蔵置すること  
 ※5 食品流通業界において、荷姿ごとの重量が異なる商品(食肉・魚など)を管理すること

の企業間ビジネスメディアサービス「TWX-21※7」上でサービス提供が行われるため、セキュリティや信頼性の確保とともに、システム保守・運用業務といったトータルコストも低減。安心して業務の標準化と安定的なサービス活用を行うことができます。

「クラウドサービスは自社で資産を持つ必要がなく、経営面での負担が少ないこと、また運用面でも選任のIT担当者が不要なことがうれしいですね」と寛氏は評価します。

※6 Electronic Data Interchange  
 ※7 企業活動に関わる設計、調達、生産、販売などきめ細かなアプリケーションサービスを提供している日立の企業間ビジネスメディアサービス。日立クラウドソリューション「Harmonious Cloud」のSaaSメニューの1つ

### 操作性とレスポンスにも高評価

システム操作を担当する本社営業部 小牧南物流センターの佐々木 智広氏は、「Sherpaの操作画面は非常に使いやすく、わかりやすいですね。ネットワーク経由のシステムということでレスポンスも心配していましたが、まったく問題ありません」と、その操作性と軽快さを高く評価。「従来システムで使っていた機能が最初からすべて盛り込まれていたため、業務も滞りなく移行できました」と笑顔を見せます。

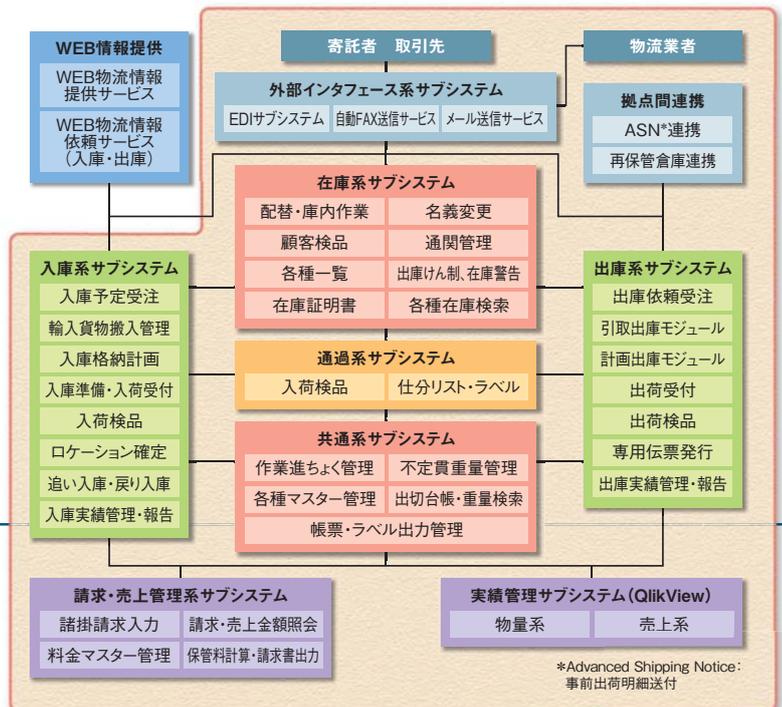
本サービスでは、お客さまを煩雑なシステム運用保守から解放し、コア業務に専念していただくため、24時間365日のシステム監視を行っています。このため、障害を検知した場合もセンター側で迅

### 導入コストを低減しながら セキュリティや信頼性も確保

今回の導入にあたっては、日立が既存業務との適合レベルを精査してサービス内容を確定させる「Fit&Gap」により、保管、請求管理、EDI※6連携、実績管理などの機能がセレクトされました。また、初期導入設定、運用テスト支援、教育支援、稼働時立ち会いといった「初期導入支援サービス」を利用したことで、実質2か月半という短期間での立ち上げを実現しました。

本社営業部 小牧南物流センター センター長の山田健二氏は、「最初は正直、本当にこれほど短期間でシステムが導入できるのか不安でした。しかし、われわれがほとんどタッチすることなく、日立さんがすべての工程をトータルに代行してくださり、あっという間にシステム稼働日を迎えることができました。不安は杞憂に終わりました」と喜びます。

Sherpa/倉庫管理クラウドソリューションは自社でサーバやストレージ、ソフトウェアなどのIT資産を持たないSaaS型サービスのため、初期導入コストが削減できるのも大きな特長の1つ。サービス基盤は、国内トップレベルの堅ろう性とセキュリティを誇る日立の環境配慮型データセンターで運用されるほか、約4万3,000社が利用する国内最大規模



名豊興運におけるSherpa/倉庫管理クラウドソリューション利用機能概要



小牧南物流センターの冷蔵倉庫(左)と低温倉庫(右)での業務風景

速に解決するほか、操作に迷った場合には、物流営業倉庫を知り尽くした専任SEが電話で即時に対応する問い合わせサービスも提供されています。

導入当初は「日に何度も問い合わせサービスを利用した」と話す佐々木氏ですが、「何でも気軽に相談できるので、今はほとんどの操作をマニュアルなしに行えるようになりました」と付け加えます。

### 実績管理データを経営戦略にも活用

一方、標準機能として提供される「実績管理機能(QlikView<sup>※8</sup>)」について笈氏は、「毎日の売上や実績、倉庫の状態などがビジュアルに把握できるようになり、とても助かっています。従来はお客さまが持ち込んだシステムだったので、こういった詳細な情報を自社視点から見ることはできませんでした。今後はどんどん活用して経営戦略や財務戦略に生かしていきたいですね」と期待を寄せます。この実績管理機能では、日々の売上・利益データなどを基に、不採算/採算業務についても精密に分析管理できるため、適切な業務の置き換えや削減を図ることで、マンパワーの有効利用や労務コストの削減に向けた効率的かつ戦略的な資源投入が可能となります。

さらにSherpa/倉庫管理クラウドソリューションならではのユニークな料金体系についても笈氏は、「倉庫容積やサービスの利用実績に応じた従量課金ということで、価格の透明性が高いことも気に入っています。当初考えていたよりも、負担が少なくすんでいると思います」と評価します。

Sherpa/倉庫管理クラウドソリューションの月額基本料金は「サービスグレード」と「設備能力ランク」の組み合わせで、きめ細かく選択することが可能です。具体的には、豊富なサービス機能の中から、お客さまが必要とする機能を柔軟に選んでいただけるよう、「Sherpa Light:保管(基本)」「Sherpa Middle:保管(基本)+3機能選択」「Sherpa Full:全機能」の3グレードをご用意。今回、名豊興運は「Sherpa Middle:保管(基本)+3機能選択」のグレードを選択しています。設備能力ランクについても、倉庫容積によって5,000トン以下の「A」、5,000トンから10,000トン以下までの

「B」、15,000トン以下までの「C」などのランク設定があり、ここに帳票出力レコード件数、FAX送信枚数、メール送信回数などに応じた従量料金と、夜間・休日保守サービスなどのオプション料金が加わることになります。

このようにSherpa/倉庫管理クラウドソリューションでは、企業規模(倉庫容積)やサービス利用内容に応じた、むだのないスケラブルな料金体系となっているため、お客さま企業のビジネス競争力の強化に欠かせないトータルコストの低減に大きな効果をもたらします。

※8 QlikTech社が提供するビジネスインテリジェンスソフトウェア

### ほかの倉庫への横展開も視野に

山田氏は一連のサービス導入を支援した日立に対し「当時は別の倉庫での新しい業務の立ち上げが重なり、業務データの移行からテストまで、ほとんどの作業を日立さんにお任せする形になってしまいました。それでもスケジュールどおりに稼働を開始できたのは、SEさんたちのしっかりしたフォローのおかげです」と感謝の言葉を述べます。

また佐々木氏も、「本稼働前からつきっきりで導入教育をしてくださったSEさんが、今日は東京へ帰られるという日に、われわれでは対処できないトラブルが発生してしまいました。そのときも嫌な顔ひとつ見せずに帰京を1日延ばして夜中まで対応してくださったことを覚えています。誠心誠意という言葉がそのまま当てはまる対応に感激しました」と当時を振り返ります。

名豊興運では今後、荷主企業のシステムで稼働中のほかの倉庫についても、タイミングを見計らいながら「Sherpaの横展開も視野に入れている」とのことで、いずれは全社的な物流サービスの標準化と、システム基盤のクラウド活用によるコア業務への集中を進めていく予定です。

さらなる事業拡大と物流業務の効率化・迅速化に向け、いち早く費用対効果の高いクラウドサービスの活用を決断した名豊興運。これからも日立はSherpa/倉庫管理クラウドソリューションの機能強化と関連サービスの提供によって、同社の継続的な企業価値向上を全力でサポートしていきます。

#### お問い合わせ先

(株)日立製作所 産業・流通システム営業統括本部  
TEL (03) 5471-2172

#### 情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/sherpa/ht534/>